

熱工学コンファレンス 2024 開催報告

実行委員会 委員長 三上 真人 (山口大学)
幹事 田之上健一郎 (山口大学)

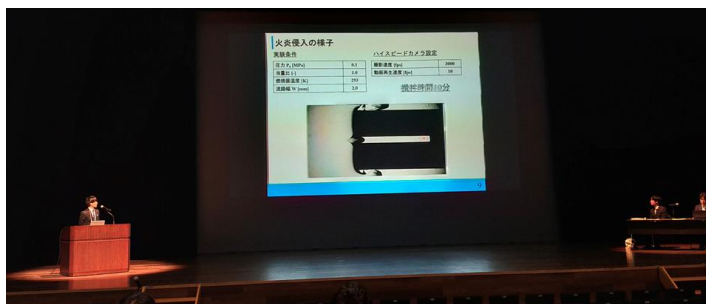
2024年10月5日～6日、山口県山口市の新山口駅前にあるKDDI維新ホールを講演会場として熱工学コンファレンス2024を開催いたしました。懇親会は湯田温泉のKAMEFUKU ON PLACEで行いました。講演会では218件の講演が行われ、招待者を含む406名が参加しました。また、懇親会には161名が参加しました。さらに、一般公開を行った特別講演には一般の方も40名ほど聴講に訪れ、大盛況となりました。

山口県での熱工学コンファレンス開催は2009年以来15年ぶりでした。そこで、今回のコンファレンスでは前回の反省点を踏まえたものといたしました。2009年の際には、会場は山口大学工学部でした。空港からは近いですが、新幹線の駅からの交通の便が悪いという難点がありました。そこで、今回は新山口駅直結のKDDI維新ホールを会場といたしました。また、こちらは前回の最大の反省点だったのですが、2009年には懇親会で料理がごく短時間で無くなるということがありました。熱工学部門ではしかたない...との慰めの言葉もいただきましたが、今回の懇親会ではオードブルに加え地元逸品料理の提供や地酒コーナーを設けるなど趣向を凝らしました。

熱工学コンファレンスの講演は、伝統的にOS主体です。今回は昨年度より1件多い16件のOSが揃いました。講演申込時には一般セッションでの申込も受け付けましたが、今回はすべての講演をOSに割り振ることで、すべてのセッションの講演順、座長選定などのハンドリングをオーガナイザに一任いたしました。講演申込の無かったOS-15を除き、また、出版委員会企画による教育用動画を披露するセッションである熱コレ2024を含み、今回のOSは以下のとおりでした。

- ・ OS-1：外燃機関・排熱利用技術
- ・ OS-2：火災・爆発
- ・ OS-3：電子機器・デバイスのサーマルマネジメント
- ・ OS-4：多孔質体内の伝熱・流動・物質輸送現象とその応用（マクロからナノスケールまで）
- ・ OS-5：乱流伝熱研究の進展
- ・ OS-6：燃料電池・電解・二次電池関連研究の新展開
- ・ OS-7：マイクロエネルギーの新展開
- ・ OS-8：熱工学からみたバイオマス変換の新展開
- ・ OS-9：凝固・融解を伴う伝熱と流れ
- ・ OS-10：ふく射輸送制御
- ・ OS-11：未来型エネルギー変換・推進システムのための燃焼研究
- ・ OS-12：沸騰・凝縮伝熱および混相流の最近の進展
- ・ OS-13：濡れ性制御と液滴ダイナミクス
- ・ OS-14：ナノスケール熱制御
- ・ OS-16：熱工学コレクション2024（熱コレ2024）

講演数や昨年度のセッション参加状況を参考に、40席～70席の会議室を各OSに割り振りましたが、会場の都合により、OS-11は1200名収容のメインホールで行うこととなりました。セッションはいずれも盛況で、活発な質疑応答が繰り返されていました。メインホール以外の会場は立ち見が出るほどでした。メインホールは通常のOSを行うには広すぎる会場でしたが、おそらく発表した学生さん達は、緊張感を持ちながらもまるで基調講演を行っているかのような気持ちを味わえたのではないかと思います。



特別講演では、瀬祭でおなじみ山口県岩国市にある旭酒造株式会社のお会長である桜井博志様に「ピンチはチャンス！～山口の山奥の小さな酒蔵だからこそできたもの～」と題して講演いただきました。本特別講演は一般の方も参加可能な公開講演として開催しましたところ、一般の方も含めて200名ほどの参加者があり、大盛況となりました。もっとも失敗した負け組の酒蔵としての考え方からお客様の幸せ志向へと考え方を転換し、当時市場の無かった純米大吟醸を地元の反発にも抗いながら作り上げ、東京市場、そしてフランス、ニューヨークをはじめとする海外市場へと展開するというダイナミックな歴史、そして、マイナスをプラスに換えるために最後の5mを追いかける！というマインドについて、静かな口調ながら熱くお話いただきました。会場からは多くの質問をいただきました。中には、今の日本の研究力の国際的地位の低下というピンチな状態に対してのアドバイスを求めるものもありました。いずれの質問に対しても、懇切丁寧な回答・アドバイスをいただき、予定時間を超えて質疑応答がなされました。桜井様の経験されたピンチは今の大学のおかれている状況とは比べものにならないくらいのものでしたので、我々はこの程度で泣き言を言うてはいけなと感じたところです。



桜井氏による特別公開講演

以上の他に、初日のお昼には、講習会委員会企画で将来の熱工学・熱技術について産学交えて議論を行う熱工学ワークショップがランチョンセミナー形式で開催されました。また、特別講演会の後には、熱工学部門賞・部門一般表彰贈呈式が部門賞委員会により執り行われました。それぞれ詳細につきましては、本ニュースレターの講習会委員会による「熱工学ワークショップ2024開催報告」および部門賞委員会による「第101期(2023年度)熱工学部門賞・部門一般表彰報告」をご覧ください。

初日の夜には、会場からはシャトルバスで湯田温泉へと移動し、KAMEFUKU ON PLACEにて懇親会を行いました。実行委員長、山口大学上西研理事の挨拶の後、鹿園直毅部門長乾杯の挨拶と続きました。冒頭でも述べたとおり、今回は地元逸品料理(瓦そば・ふぐ寿司)を全員に用意いたしました。また、山口の選りすぐりの純米大吟醸6種から成る地酒コーナーも設けました。旭酒造桜井様からの瀬祭磨き2割3分の寄贈もあり、また、山口市による地酒コーナー補助金の後押しもあり、かなりの充実したラインアップを取り揃えることができました。皆様の笑顔が印象的でしたので、日本酒好きの多い熱工学部門参加者にもご満足いただけたものと思っております。懇親会の後半では、熱コレ2024表彰式、部門賞・一般表彰受賞者紹介と続き、次年度の熱工学コンファレンス2025実行委員長の山形大学鹿野一郎先生より開催案内がなされました。最後は九州大学高田保之先生に締めの言葉をいただきました。懇親会冒頭の実行委員長挨拶で、実行委員長としてはあるまじく「明日は明日、今宵を楽しみましょう！」と発言いたしましたので、おそらく皆さま、懇親会後も山口の夜をさらに楽しまれたことと思います。



懇親会の様子

今回の実行委員会は、山口大学（三上，田之上，上道，白石，坂野）と山口東京理科大学（結城(和)，結城(光)，神名）の8名ほどの少数精鋭メンバーによるものでした。手前みそではありませんが、皆お互いの役割を補完し合いすばらしい働きをしてくださいましたので、懇親会の中ほどで実行委員の面々を紹介させていただいたくらいです。ここでは各自の工夫や細やかな気づかひをすべて紹介することはできませんが、ちょっとしたもてなしの心やセンスの光った例をいくつか紹介させていただきます。お気づきだったかと思いますが、今回のホームページは従来の青基調ではなく、萌木色を基調としています。山口のイメージを心の落ち着く萌木色で表現したものです。お役立ち情報や細やかなリンクも配置されていました。また、看板とスタッフ証にあしらわれた絵柄は、「山」と「口」をイメージした△と□で構成されていて、山口市にある日本三名塔の一つである国宝瑠璃光寺五重塔をモチーフにしたものでした。しかも、色は下の寒色系から上の暖色系へと変化させていて、「熱工学」までもモチーフに入っています！実はこれはある実行委員のお子さんによるデザインだったのです。そして、そのデザインの入ったスタッフ証には、スタッフの山口イチオシを書くようになっていました。これを見て、アルバイトに声をかけていただいた参加者も多くいらっしゃいました。

今回のシンポジウムの準備にあたり、関係する委員会や OS でできることはそれぞれで行っていただくことで小規模な実行委員会が会場運営に集中できるよう、実行委員長から慣例に倣わない無理をお願いしましたところ、ご理解いただき、ご対応いただきました。このようなご協力のもとで熱工学コンファレンス 2024 を成功裡に終えることができたと感じております。関係者の皆さまに改めまして感謝申し上げます。

最後に、本記事をご覧になり、コンファレンスの様子や熱い議論、山口の逸品料理・銘酒の味を思い出していただけますと幸いです。



ちょっとしたもてなしの心：ホームページ・看板・スタッフ証